

No 1

【1】〔英文解釈〕《東京大》

第1文

He had crossed the main road one morning / and was descending a short street / when Kate Caldwell came out of a narrow side street in front of him / and walked toward school, / her schoolbag bumping at her hip.

彼はある朝大通りを渡っていて / そして短い通りを下っていた / そのときケイト・コールドウェルが彼の前方の狭い横道から出てきて / そして学校のほうへ歩いていった / 通学かばんを腰のあたりで揺らしながら

☑ 彼はある朝、大通りを渡って短い通りを下っていた。そのとき、ケイト・コールドウェルが彼の前方の狭い横道から出てきて、通学かばんを腰のあたりで揺らしながら学校のほうへ歩いていった。

この文の骨格は He had crossed the main road one morning and was descending a short street である。had crossed は過去完了で、「『その朝のある時点までに大通りを渡り終えていた』」ことを表している。one morning は「『ある朝』」という時を示す副詞句である。続く was descending は過去進行形で、「『そのとき短い通りを下っている途中だった』」という進行中の動作を表している。したがって、すでに大通りは渡り終え、その後で短い通りを下っている最中に次の出来事が起こった、という時間関係になる。

when Kate Caldwell came out of a narrow side street in front of him は時を表す節で、「『そのときケイト・コールドウェルが彼の前方の狭い横道から出てきた』」という意味である。came out of は「『…から出てくる』」、a narrow side street は「『狭い横道』」である。in front of him は「『彼の前方に』」を表し、彼の視界に彼女が現れたことを示している。

and walked toward school は came out of ... に続く並列の動詞で、「『そして学校のほうへ歩いていった』」という意味である。toward school は「『学校のほうへ』」を表す。文末の her schoolbag bumping at her hip は付帯状況を表す表現で、her schoolbag が意味上の主語、bumping が現在分詞である。「『通学かばんが腰のあたりでゴツゴツ当たりながら揺れている』」という情景を補っている。at her hip は「『腰のあたりで』」である。文全体として、彼の目の前に少女が現れて歩いていく姿が、視覚的に細かく描かれている。

【ポイント】

・had crossed と was descending によって、「『渡り終えていた』」ことと「『下っている途中だった』」ことの時間差が示されている。

・her schoolbag bumping at her hip は付帯状況で、「『かばんを揺らしながら』」という様子を補っている。

第2文

He followed excitedly, / meaning to overtake / but lacking the courage.

彼は興奮してあとをつけた / 追いつこうと思いつつながら / しかしその勇気がなくて

☑彼は興奮してあとをつけたが、追いつこうと思いつつながらも、その勇気がなかった。

この文の主節は He followed excitedly である。He が主語、followed が動詞、excitedly が様態を表す副詞で、『興奮して、気持ちを高ぶらせながら』あとを追ったことを示している。follow はここでは『後をついていく』の意味である。

meaning to overtake は現在分詞による付帯状況で、主語 He の気持ちを補っている。mean to V は『…するつもりである』を表すので、meaning to overtake は『追いつこうと思いつつながら』の意味になる。overtake はここでは単に追い抜くことだけではなく、「近づいて声をかける」ことまで含むように読める。

but lacking the courage も付帯状況を表すが、meaning to overtake と反対方向の内容を加えている。lack は『欠いている』、the courage は『その勇気』である。つまり「追いつきたいとは思っているが、その勇気がない」という内面のためらいがここで示されている。but によって、願いと現実との対立がはっきり表されている。

【ポイント】

- ・meaning to overtake は『追いつこうと思いつつながら』という付帯状況を表す分詞構文。
- ・but lacking the courage によって、『そうしたいのにできない』というためらいが示されている。

第3文

What could he say to her?

彼はいったい彼女に何を言えただろうか。

この文は What を文頭に置いた疑問文である。What が say の目的語になっており、『何を』にあたる。could he say は助動詞 could を用いた疑問形で、『言えただろうか』という意味になる。ここでの could は単なる過去の能力ではなく、「実際には何も思いつかない」「何を言えるだろう、いや言えない」というためらいをこめた表現である。to her は『彼女に』を表す前置詞句である。

ここでは、地の文の流れの中に主人公の心の中の問いがそのまま差し込まれており、描出話法的な表現になっていると考えられる。つまり、He wondered what he could say to her. のように説明的に書く代わりに、人物の内面の声を直接に近い形で示すことで、読者がその場で彼の戸惑いを感じ取れるようにしている。短い文だが、そのぶん緊張が強く伝わる。

【ポイント】

- ・could he say は『言えただろうか』というためらいを含む表現である。
- ・この文は、主人公の心の声在地の文の中に現れる描出話法的表現である。

第4文

He imagined his stammering voice / saying dull, awkward things / about lessons and the weather / and could only imagine / her saying conventional things in response.

彼は自分のどもる声が / 退屈でぎこちないことを言うのを想像した / 授業や天気について / そしてただ想像することしかできなかった / 彼女がありきたりのことをそれに答えて言うのを

☑彼は、自分のどもる声が、授業や天気について退屈でぎこちないことを言うのを想像した。そして、彼女もそれに対してありきたりのことを言う姿しか思い描けなかった。

この文の前半の骨格は He imagined his stammering voice saying dull, awkward things about lessons and the weather である。imagined は「『想像した』」、his stammering voice が imagine の目的語になっている。stammering は「『どもる』」、voice は「『声』」である。つまり彼は、自分がどう話すかという内容だけでなく、自分の話し方そのものまで意識してしまっている。

saying dull, awkward things は目的語 his stammering voice に続く現在分詞句で、「『退屈でぎこちないことを言う』』という内容を補っている。dull は「『退屈な、つまらない』」、awkward は「『ぎこちない、気まずい』」を表す。about lessons and the weather は「『授業や天気について』」で、無難ではあるが面白みのない話題を示している。

後半の and could only imagine her saying conventional things in response は、前半の想像を受けて続いている。could only imagine は「『ただ…と想像することしかできなかった』」で、他のもっとよい展開を思い浮かべられないことを示す。her saying conventional things in response では、her が意味上の主語、saying が現在分詞で、「『彼女がそれに答えてありきたりのことを言う』』という内容である。conventional は「『型どおりの、ありきたりの』」、in response は「『それに応じて、返事として』」を表す。文全体として、彼は会話の始まりも返ってくる言葉も、どちらも気まずく平凡なものにしか想像できないのである。

【ポイント】

- ・imagined his stammering voice saying ... は、「『自分の声が…と言うのを想像した』』という構造である。
- ・about lessons and the weather は「『授業や天気について』」で、会話のつまらなさを示している。
- ・could only imagine により、「『よい展開を思い描けない』』閉塞感が表されている。

第5文

Why didn't she turn and smile and call to him, / saying, "Don't you like my company?"

なぜ彼女は振り向いて微笑み彼に声をかけてくれなかったのだろう / 「私と一緒にいるのは好きじゃないの?」と言いながら

☑なぜ彼女は振り向いて微笑み、彼に声をかけて、「私と一緒にいるのは好きじゃないの?」と言ってくれなかったのだろう。

この文は Why didn't she ...? という疑問文であり、Why が『なぜ』、didn't she turn and smile and call to him がその内容になっている。turn and smile and call to him と動詞が三つ並列されており、『振り向く』『微笑む』『彼に声をかける』という一連の親しげな動作が連なっている。call to him は『彼に呼びかける』の意味である。

saying, "Don't you like my company?" は現在分詞句で、その呼びかけの中身を示している。my company はここでは『私と一緒にいること、私がそばにいること』を表す。Don't you like my company? は直訳すると『私と一緒にいるのは好きじゃないの?』であり、彼が密かに望んでいる理想的な言葉である。つまりこの文は、実際に彼女がそうしたわけではなく、「そうしてくれたらどんなによかったか」という彼の願望を表している。

ここも描出話法的な箇所である。語り手が外から客観的に説明するのではなく、主人公の心の願望や想像が、そのまま疑問文や imagined speech の形で表に出ている。とくに Why didn't she ...? は、単なる事実確認ではなく、「そうしてほしかったのに」という内面の思いがにじんんでいる点が重要である。

【ポイント】

- ・Why didn't she ...? は、願望のにじむ疑問文である。
- ・saying 以下は、彼が心の中で望んでいる理想の呼びかけを表している。
- ・この文も描出話法的で、主人公の心の声が地の文の中に表れている。

第6文

If she did, / he would smile faintly / and approach / with eyebrows questioningly raised.

もし彼女がそうしたなら / 彼はかすかに微笑むだろう / そして近づくだらう / 疑わしげに眉を上げながら

☑もし彼女がそうしてくれたなら、彼はかすかに微笑み、いぶかしげに眉を上げながら近づいていったらう。

この文は仮定法の形で書かれている。If she did が条件節で、『もし彼女がそうしたなら』を意味する。did は直前の turn and smile and call to him を受ける代動詞的な用法である。つまり、「もし彼女が振り向いて微笑み、声をかけてくれたなら」という仮定である。

主節は he would smile faintly and approach である。would smile and approach は仮定法の帰結で、『微笑んで近づいたらう』を表す。faintly は『かすかに、ほのかに』で、彼の控えめな反応を示している。with eyebrows questioningly raised は with を用いた付帯状況で、『眉を問いかけるように上げながら』という意味になる。questioningly は

「『問いかけるように、いぶかしげに』」、raised は「『上げられた』」である。つまり彼は、完全に自信満々なのではなく、半信半疑でおずおずと近づく姿を想像している。

この文も、現実の出来事ではなく、主人公の心の中で作られた仮想の場面を、そのまま地の文の中に流し込んでいる点で描出話法的である。語り手が「彼はそう想像した」と逐一説明するのではなく、彼の心の中の仮想場面そのものを読者に見せることで、内面の動きがより生々しく伝わる。

【ポイント】

- ・If she did は仮定法の条件節で、「『もし彼女がそうしたなら』」を表す。
- ・would smile faintly and approach が帰結部分である。
- ・この文も描出話法的で、主人公の想像の場面がそのまま示されている。

第7文

But she did nothing.

しかし彼女は何もしなかった。

この文は非常に短いですが、前の二文の願望や想像を断ち切る強い文である。But が「『しかし』」を表し、直前までの仮想場面から現実へと引き戻している。she did nothing は「『彼女は何もしなかった』」という単純な SVO に近い構造で、did が動作を表し、nothing が「『何も…ない』」を示す。

短さそのものが効果をもっており、彼の心の中でふくらんだ期待が、現実の無反応によって一気に断ち切られる感じを与えている。前の長めの想像の描写と対照的であるため、この一文がいつそう冷たく響く。

【ポイント】

- ・But によって、想像の世界から現実へ引き戻している。

第8文

She made not even the merest gesture.

彼女はごくわずかなそぶりさえ見せなかった。

この文の骨格は She made not even the merest gesture である。make a gesture は「『身ぶりをする』『そぶりを見せる』」の意味である。not even がつくことで、「『…さえもない』」という強い否定になる。the merest gesture の merest は mere の最上級で、「『ほんのわずかな、最小限の』」を表す。したがって全文は、「『ほんのわずかな合図さえしなかった』」という強い意味になる。

前文の She did nothing を、さらに言い換えながら強めている文でもある。単に「何もしなかった」だけでなく、「わずかな気配すら示さなかった」と言い直すことで、彼女の無反応が決定的であることを印象づけている。

【ポイント】

- ・make a gesture は『『そぶりを見せる』』を表す。
- ・not even によって、『『…さえもない』』という強い否定になる。

【2】〔英文解釈〕

第1文

There are various ways / of accounting for dreams.

夢を説明するさまざまな方法がある / 夢を説明するための

- ☑ 夢を説明するさまざまな方法がある。

この文の骨格は There are various ways of accounting for dreams である。There are ... は存在を表す構文で、『『…がある』』を意味する。真の主語は various ways で、『『さまざまな方法』』を表している。of accounting for dreams は ways を後ろから説明する前置詞句である。account for A は『『A を説明する』』という意味の重要表現であり、ここでは『『夢を説明する方法』』という内容になる。文全体としては、「夢とは何か、どう理解すべきか」について複数の考え方が存在することを述べ、以下の説明の出発点になっている。

【ポイント】

- ・account for dreams は『『夢を説明する』』を表す。

第2文

Some claim / that they are mysterious experiences / in which the soul travels out of the body.

ある人々は主張する / 夢は神秘的な体験だと / その中で魂が身体の外へ出ていく

- ☑ 夢は、魂が身体の外へ出ていく神秘的な体験である、と主張する人もいる。

この文の骨格は Some claim that ... である。Some は『『ある人々』』、claim は『『主張する』』である。that 節の中心は they are mysterious experiences で、they は dreams を受ける。mysterious experiences は『『神秘的な体験』』という意味である。

続く in which the soul travels out of the body は experiences を修飾する関係表現である。in which は『『その中で』』、the soul が主語、travels out of the body が述語で、『『魂が身体の外へ出ていく』』を表している。したがってこの文は、夢を靈魂離脱のような神秘現象とみなす立場を示している。

【ポイント】

- ・they は dreams を受けている。
- ・in which は experiences を受け、『『その中で』』を表す。

第3文

Others assert / that they are the reflections of hidden desires / or socially unacceptable urges.

別の人々は断言する / 夢は隠れた欲望の反映だと / あるいは社会的に受け入れられない衝動の

✓別の人々は、夢は隠れた欲望や社会的に受け入れられない衝動の反映である、と断言する。

この文の骨格も Others assert that ... である。Others は『別の人々』、assert は claim よりやや強く『断言する、強く主張する』を意味する。that 節の中心は they are the reflections of hidden desires or socially unacceptable urges である。they は dreams を受けている。the reflections of ... は『…の反映』を表す。hidden desires は『隠れた欲望』、socially unacceptable urges は『社会的に受け入れられない衝動』である。ここでは夢が、無意識や抑圧された欲求の表れだとする心理学的な見方が示されている。

【ポイント】

- ・the reflections of ... は『…の反映』を表す。
- ・or により、『欲望』と『衝動』が並列されている。

第4文

Still others are inclined to think / that they do not conceal any deep significance.

さらに別の人々は考えがちである / 夢は何の深い意味も隠していないと

✓さらに別の人々は、夢は何の深い意味も隠してはいないと考えがちである。

この文の骨格は Still others are inclined to think that ... である。Still others は『さらに別の人々』を意味し、前の二つの立場に加えて第三の見方を示している。are inclined to think は『…と考えがちである』『…と考える傾向がある』を表す。that 節の中心は they do not conceal any deep significance である。they は dreams を受ける。conceal は『隠す』、any deep significance は『いかなる深い意味も』である。つまりこの文は、夢に特別な象徴的意味を認めない立場を示している。

【ポイント】

- ・Still others は『さらに別の人々』を表す。
- ・are inclined to think は『…と考えがちである』を表す。
- ・do not conceal any deep significance は『何の深い意味も隠していない』を意味する。

第5文

Some dreams are / little more than traces of recent experiences.

ある夢は / 最近の経験の痕跡にすぎない

☑ある夢は、最近の経験の痕跡にすぎない。

この文の骨格は Some dreams are little more than traces of recent experiences である。Some dreams が主語、are が動詞である。little more than A は『A にほとんどすぎない』『A 程度のものにすぎない』を表す重要表現である。traces of recent experiences は『最近の経験の痕跡』を意味する。つまり、夢の中には深い象徴や無意識の表れではなく、直近の体験の残像にすぎないものもある、と述べている。

【ポイント】

- ・little more than A は『A にすぎない』を表す。
- ・traces of recent experiences は『最近の経験の痕跡』を意味する。

第6文

If, for instance, / we spend the day driving across the country, / it would not be unusual / to dream about driving down a highway.

たとえばもし / 私たちが一日中その国を車で横断して過ごしたなら / 珍しいことではないだろう / 高速道路を走る夢を見ることは

☑たとえば、私たちが一日中車で国中を走って過ごしたなら、高速道路を走る夢を見るのは少しも珍しいことではないだろう。

この文は If 節をもつ条件文である。If, for instance, we spend the day driving across the country が条件節で、『たとえば一日中車で国中を走って過ごしたなら』を意味する。for instance は『たとえば』である。spend the day driving ... は『一日を…しながら過ごす』という表現である。

主節は it would not be unusual to dream about driving down a highway である。it は形式主語で、真主語は to dream ... である。would not be unusual は『珍しくないだろう』を表し、dream about ... は『…の夢を見る』である。driving down a highway は『高速道路を走ること』である。つまり、日中の体験がそのまま夢に現れることは不思議ではない、と述べている。

【ポイント】

- ・it would not be unusual to V は『Vしても珍しくない』を表す。
- ・spend the day driving ... は『一日を…して過ごす』という形である。

第7文

While such dreams are / reasonably straightforward, / many others appear disconnected and nonsensical.

そのような夢は / かなりわかりやすいが / 多くの他の夢はばらばらで意味をなさないように見える

☑ そのような夢はかなりわかりやすいが、他の多くの夢は、ばらばらで意味をなさないように見える。

この文は While 節を用いた対比の文である。While such dreams are reasonably straightforward の such dreams は直前の「最近の経験をそのまま反映した夢」を受ける。reasonably straightforward は『かなりわかりやすい、比較的素直である』を意味する。主節は many others appear disconnected and nonsensical である。many others は『他の多くの夢』、appear は『…のように見える』、disconnected and nonsensical は『ばらばらで意味不明な』を表している。つまり、夢の中には比較的わかりやすいものもあるが、大部分はそうではなく、つながりを欠き不合理に見えるものが多いと述べている。

【ポイント】

- ・While はここでは対比『…である一方』を表す。
- ・many others appear disconnected and nonsensical が後半の骨格である。

第8文

The fact / that most dreams have a surrealistic quality / — a quality that causes them to be highly resistant to interpretation — / has influenced many people / to dismiss dreams / as altogether meaningless.

事実は / たいていの夢が超現実的な性質をもっているという / — その性質は夢を解釈に非常に抵抗するものにする — / 多くの人々に影響を与えてきた / 夢を退けるように / まったく無意味なものとして

☑ たいていの夢が超現実的な性質をもっているという事実—そしてその性質が夢を解釈しにくいものになっているということ—は、多くの人々に、夢をまったく無意味なものとして退けさせてきた。

この文の骨格は The fact that ... has influenced many people to dismiss dreams as altogether meaningless である。主語は The fact that ... という that 節を含む名詞句であり、『…という事実』を表している。that 節の内容は most dreams have a surrealistic quality で、『たいていの夢は超現実的な性質をもっている』という意味である。ダッシュで挿入されている a quality that causes them to be highly resistant to interpretation は、その surrealistic quality の説明である。that は quality を受ける関係代名詞で、causes them to be ... は『それによって夢が…になる』を表す。them は dreams を受ける。highly resistant to interpretation は『解釈に非常に抵抗する、きわめて解釈しにくい』という意味である。

主節の has influenced many people to dismiss dreams as altogether meaningless では、influence A to V が『A に V するよう影響を与える』を表す。

dismiss dreams as ... は『夢を…として退ける』、altogether meaningless は『まったく無意味な』である。文全体として、夢が奇妙で解釈しにくいことが、多くの人に「夢には意味がない」と考えさせてきた、と述べている。

【ポイント】

- ・The fact that ... が主語になっている。
- ・ダッシュ内は surrealistic quality の説明である。
- ・has influenced many people が主節の中心である。

第9文

According to one scientific theory, / here roughly sketched, / dreams are the result of the forebrain's attempts / to understand the random electrical signals / that are generated / by the hindbrain / during sleep.

ある科学理論によれば / ここでは大まかに述べられるが / 夢は前脳の試みの結果である / 無作為な電気信号を理解しようとする / それは生み出される / 後脳によって / 睡眠中に

- ここで大まかに述べるある科学理論によれば、夢は、睡眠中に後脳によって生み出される無作為な電気信号を前脳が理解しようとする、その試みの結果である。

文頭の According to one scientific theory は『ある科学理論によれば』を表す前置詞句である。here roughly sketched は挿入的に置かれ、『ここでは大まかに述べるが』という意味で、これから説明する理論がごく概略であることを示している。

主節の骨格は dreams are the result of the forebrain's attempts to understand the random electrical signals ... である。dreams が主語、are が動詞、the result of ... が補語である。the forebrain's attempts は『前脳の試み』、to understand the random electrical signals はその内容を示す不定詞である。the random electrical signals は『無作為な電気信号』を表す。

that are generated by the hindbrain during sleep は signals を修飾する関係詞節である。are generated は受動態で『生み出される』、by the hindbrain が行為者、『後脳によって』、during sleep が『睡眠中に』を表す。文全体として、この理論は夢を「睡眠中に生じる無秩序な信号を前脳が理解しようとする過程の産物」として説明している。

【ポイント】

- ・dreams are the result of ... が主節の骨格である。

第10文(下線部(1))

In normal waking consciousness, / the forebrain sorts through various kinds of internal and external sensory data / to construct a meaningful view of the world.

通常の覚醒意識においては / 前脳は内的・外的なさまざまな感覚情報をえり分ける / 世界についての意味ある像を作り上げるために

☑ 通常の覚醒意識においては、前脳は、内的・外的なさまざまな感覚情報をえり分けて、世界についての意味ある像を作り上げる。

文頭の In normal waking consciousness は「『通常の覚醒意識においては』」を表す前置詞句である。normal waking consciousness は「『ふつう目覚めているときの意識状態』」を意味する。主節の骨格は the forebrain sorts through various kinds of internal and external sensory data である。the forebrain は「『前脳』」、sort through は「『えり分ける、整理しながら見分ける』」を表す句動詞である。various kinds of internal and external sensory data は「『内的・外的なさまざまな感覚情報』」を表す。

to construct a meaningful view of the world は目的を表す不定詞句である。construct は「『構成する、作り上げる』」、a meaningful view of the world は「『世界についての意味ある見方・像』」を意味する。つまりこの文は、普段目覚めているときには、前脳が雑多な感覚情報を整理して、一つの意味ある世界像を作り上げていると述べている。

【ポイント】

- ・In normal waking consciousness は状況を示す前置詞句である。
- ・the forebrain sorts through various kinds of internal and external sensory data が主節の骨格である。
- ・to construct a meaningful view of the world は目的を表している。

第11文

Faced with a flood of disconnected, random inputs / generated by more primitive areas of the brain during sleep, / the higher mental centers / attempt to impose order / on the incoming signals, / creating / whatever narrative structure dreams have.

ばらばらで無作為な入力の洪水に直面して / それは睡眠中に脳のより原始的な部分によって生み出される / より高次の精神中枢は / 秩序を与えようとする / 入ってくる信号に / そして作り出す / 夢がもっているだけのどんな物語構造でも

☑ 睡眠中に脳のより原始的な部分によって生み出される、ばらばらで無作為な入力の洪水に直面すると、より高次の精神中枢は、入ってくる信号に秩序を与えようとし、その結果、夢がもっているだけの物語構造を作り出す。

Faced with ... は受け身的な分詞構文で、「『…に直面して』」を意味する。a flood of disconnected, random inputs は「『ばらばらで無作為な入力の洪水』」である。generated by more primitive areas of the brain during sleep は inputs を修飾する過去分詞句で、「『睡眠中に脳のより原始的な部分によって生み出される』」を意味する。

主節の骨格は the higher mental centers attempt to impose order on the incoming signals である。the higher mental centers は『より高次の精神中枢』、attempt to impose order on ... は『…に秩序を与えようとする』を表す。the incoming signals は『入ってくる信号』である。

creating whatever narrative structure dreams have は結果・付帯状況を表す現在分詞句である。whatever narrative structure dreams have は『夢がもっているだけの、どんな物語構造でも』という意味で、夢に見られる筋立てが、こうした秩序づけの結果として作られることを示している。

【ポイント】

- ・Faced with ... は『…に直面して』を表す分詞構文である。
- ・whatever narrative structure dreams have は『夢がもっているだけの物語構造』を意味する。

第12文

Many dreams / that are just clusters of incoherent images / represent / incoming groups of signals / that the forebrain was simply not able to synthesize.

多くの夢は / ただ支離滅裂なイメージのかたまりにすぎないような / 表している / 入ってくる信号の集まりを / 前脳がとうてい統合できなかつた

✓ただ支離滅裂なイメージのかたまりにすぎない多くの夢は、前脳がとうてい統合することのできなかつた、入ってくる信号の集まりを表している。

この文の骨格は Many dreams ... represent incoming groups of signals ... である。Many dreams が主語、represent が動詞である。that are just clusters of incoherent images は dreams を修飾する関係詞節で、『ただ支離滅裂なイメージのかたまりにすぎない』という意味である。clusters は『かたまり』、incoherent は『まとまりのない、支離滅裂な』を表す。

目的語は incoming groups of signals で、『入ってくる信号の集まり』という意味である。that the forebrain was simply not able to synthesize は signals を修飾する関係詞節である。was not able to synthesize は『統合することができなかつた』を表す。simply はここでは『まったく、どうしても』に近い強調である。文全体として、まとまりのない夢は、前脳がうまく統合できなかつた信号群そのものの反映だと説明している。

【ポイント】

- ・that are just clusters of incoherent images は dreams を修飾している。
- ・represent incoming groups of signals が主節の中心である。
- ・that the forebrain was simply not able to synthesize は signals を修飾している。

第13文

Not all dreams are, however, / utterly senseless.

すべての夢がそうであるわけではない / しかし / まったく無意味な

☑しかし、すべての夢がまったく無意味だというわけではない。

この文は部分否定の文である。Not all dreams are ... は『すべての夢が…というわけではない』を意味する。however は挿入的に置かれ、『しかし』という転換を表す。utterly senseless は『まったく無意味な』を表す。前文までで夢の無秩序さが説明されたあと、それでもすべてが完全に無意味ではない、と議論を転じている。

【ポイント】

・Not all ... は部分否定である。

第14文

Take, for example, / those / we have all seen / at one time or another / in which we are falling, flying or appearing naked in public.

たとえば取り上げてみよう / そうした夢を / 私たちが皆見たことのある / いつかは / その中で私たちが落ちたり飛んだり人前で裸で現れたりする

☑たとえば、私たちが皆いつかは見たことのある、落ちたり飛んだり、人前で裸で現れたりする夢を考えてみよう。

文頭の Take, for example, ... は呼びかけの表現で、『たとえば…を取り上げてみよう』を意味する。those が take の目的語であり、夢を指している。we have all seen は those を修飾する関係詞節で、『私たちが皆見たことのある』を表す。at one time or another は『いつかは、どこかの時点で』という意味の慣用表現である。

in which we are falling, flying or appearing naked in public は those を受ける関係表現である。『その中で私たちが落ちたり飛んだり、人前で裸で現れたりする』という意味で、典型的な夢の内容が並列されている。文全体として、多くの人が共通して見る典型的な夢の例を挙げている。

【ポイント】

・Take, for example, ... は『たとえば…を考えてみよう』を表す。

・we have all seen は those を修飾している。

・in which 以下が、その夢の内容を説明している。

第15文

Dreams of this kind most likely have their bases / in experiences and anxieties / shared by all human beings.

この種の夢はおそらくその基盤をもっている / 経験や不安の中に / すべての人間に共有された

✔この種の夢は、おそらく、すべての人間に共有された経験や不安の中に、その基盤をもっている。

この文の骨格は Dreams of this kind most likely have their bases in ... である。Dreams of this kind は「『この種の夢』」、most likely は「『おそらく』」、have their bases in ... は「『…の中に基盤をもつ』」を表す。

in experiences and anxieties shared by all human beings の shared by ... は experiences and anxieties を修飾する過去分詞句である。「『すべての人間に共有された経験や不安』」を表している。つまり、こうした典型的な夢は、個人だけの特殊な体験ではなく、人間一般に共通する経験や不安に根ざしている可能性が高いと述べている。

【ポイント】

- ・have their bases in ... は「『…に基盤をもつ』」を表す。
- ・most likely は「『おそらく』」を表す副詞句。
- ・shared by all human beings は experiences and anxieties を修飾している。

第16文

Falling is a good example of a shared dream motif.

落下は共有された夢のモチーフのよい例である

✔落下は、共有された夢のモチーフのよい例である。

この文の骨格は Falling is a good example of a shared dream motif である。Falling は動名詞で、「『落ちること、落下』」を表している。a good example of ... は「『…のよい例』」、a shared dream motif は「『共有された夢のモチーフ』」を意味する。motif は「『主題、繰り返し現れる型』」である。したがってこの文は、落下の夢が、多くの人に共通して見られる典型的な夢のパターンだと述べている。

【ポイント】

- ・Falling は動名詞で「『落下すること』」を表す。
- ・a shared dream motif は「『共有された夢の型』」を意味する。

第17文

Psychologists speculate / that falling dreams are rooted / in our early experiences / as toddlers taking our first steps.

心理学者たちは推測する / 落下の夢は根ざしていると / 私たちの幼いころの経験に / 最初の一步を踏み出すよちよち歩きの子どもとしての

✔心理学者たちは、落下の夢は、幼児として最初の一步を踏み出すころの私たちの初期経験に根ざしているのではないかと推

測している。

この文の骨格は Psychologists speculate that ... である。speculate は「『推測する』」を意味する。that 節の中心は falling dreams are rooted in our early experiences である。are rooted in ... は「『…に根ざしている』」という表現である。our early experiences は「『私たちの初期の経験』」を表す。

as toddlers taking our first steps は our early experiences を具体化する表現である。toddlers は「『よちよち歩きの子ども』」、taking our first steps は「『最初の一步を踏み出す』」を意味する。したがってこの文は、落下の夢が、人が幼いころに歩き始めたときの不安定さの経験に由来するのではないかという心理学的説明を示している。

【ポイント】

- ・are rooted in ... は「『…に根ざしている』」を表す。
 - ・as toddlers taking our first steps が early experiences の内容を具体化している。
-

第18文(下線部(2))

If this hypothesis is correct, / then childhood experiences must have left deep imprints / in the brain / that are somehow activated / in adult life / during periods of high anxiety.

もしこの仮説が正しいなら / それなら子ども時代の経験は深い痕跡を残していたにちがいない / 脳の中に / それは何らかの形で呼び起こされる / 成人後の生活において / 強い不安の時期に

☑もしこの仮説が正しいのなら、子ども時代の経験は、脳の中に深い痕跡を残していたにちがいない、その痕跡は成人後の生活の中で、強い不安の時期に何らかの形で活性化されるのである。

この文は If 節をもつ条件文である。If this hypothesis is correct が条件節で、「『もしこの仮説が正しいなら』」を意味する。主節の骨格は then childhood experiences must have left deep imprints in the brain である。must have left は過去の強い推量で、「『残していたにちがいない』」を表す。deep imprints は「『深い痕跡』」である。

in the brain がその場所を示し、that are somehow activated in adult life during periods of high anxiety は imprints を修飾する関係詞節である。are activated は受動態で「『活性化される、呼び起こされる』」、somehow は「『何らかの形で』」、in adult life は「『成人後の生活の中で』」、during periods of high anxiety は「『強い不安の時期に』」を表している。つまりこの文は、幼いころの体験が脳に残り、大人になって不安が高まる時期に再びよみがえるのだ、という説明である。

【ポイント】

- ・If this hypothesis is correct が条件節である。

- ・must have left は過去の強い推量を表す。
- ・that are somehow activated ... は imprints を修飾している。

第19文

Some sociobiologists have further speculated / that the fear of falling ultimately derives / from an inherited instinct or reflex / handed down by our prehistoric ancestors, / who could fall out of trees / during their sleep.

一部の社会生物学者はさらに推測してきた / 落下への恐怖は究極的には由来すると / 受け継がれた本能あるいは反射に / 私たちの先史時代の祖先から伝えられた / 彼らは木から落ちることがありえた / 眠っているあいだに

- ☑一部の社会生物学者はさらに、落下への恐怖は、睡眠中に木から落ちることがありえた先史時代の祖先から伝えられた、受け継がれた本能ないし反射に、究極的には由来するのではないかと推測している。

この文の骨格は Some sociobiologists have further speculated that ... である。have speculated は現在完了で、『推測してきた』を表す。further は『さらに』で、前文の心理学的説明に加えて別の説明を出している。

that 節の中心は the fear of falling ultimately derives from an inherited instinct or reflex である。derive from ... は『…に由来する』を表す。the fear of falling は『落下への恐怖』、an inherited instinct or reflex は『受け継がれた本能または反射』を意味する。handed down by our prehistoric ancestors は instinct or reflex を修飾する過去分詞句で、『先史時代の祖先から伝えられた』を表す。

さらに who could fall out of trees during their sleep は ancestors を修飾する関係詞節である。『睡眠中に木から落ちることがありえた祖先』という意味である。文全体として、落下への恐怖を人類の進化的な経験にまでさかのぼって説明する立場が示されている。

【ポイント】

- ・derive from ... は『…に由来する』を表す。
- ・handed down by ... は instinct or reflex を修飾している。
- ・who could fall out of trees ... は ancestors を修飾している。

第20文

Where all dreams come from / is still uncertain, / but / one can hope for the day / when an explanation of their origins is no longer a dream.

すべての夢がどこから来るのかは / なお不確かである / しかし / 人はその日を望むことができる / 夢の起源の説明がもはや夢ではなくなる

- ☑すべての夢がどこから来るのかはいまだ不確かであるが、その起源の説明がもはや夢ではなくなる日を、人は望むことができる。

この文の前半の骨格は Where all dreams come from is still uncertain である。Where all dreams come from は間接疑問節であり、その全体が主語になっている。「『すべての夢がどこから来るのか』』という意味である。is still uncertain は「『いまだ不確かである』』を表す。

後半は but one can hope for the day when ... である。hope for the day は「『その日を望む』』を意味する。when an explanation of their origins is no longer a dream は the day を修飾する関係副詞節で、「『その起源の説明がもはや夢ではなくなる日』』という意味である。their origins は dreams を受けている。最後の no longer a dream は文字どおりには「『もはや夢ではない』』だが、ここでは「『まだ実現していない願いではなく、現実の説明になる』』というしゃれのきいた締めくくりになっている。

【ポイント】

- ・Where all dreams come from が主語になっている。
- ・one can hope for the day ... は「『その日を望むことができる』』を表す。
- ・when an explanation of their origins is no longer a dream が the day を修飾している。